

カメラ ま ち の 出 来 事 あらかると

広報たかはし

広報たかはし

今日は楽しい ひなまつり～♪ (3月3日 川上保育園)

川上保育園(0～3歳児:43人)では、桃の節句に合わせて、3月の誕生会を行いました。誕生月を迎えた園児2人が、おひなさまとお内裏さまに扮し、みんなで「うれしいひなまつり」を歌ってお祝いしました。

その後、園児たちは自分で作ったひな人形も飾った壇飾りの前で、「お子様ランチ」風のひなちらし寿司をおいしそうに、いただいでいました。



城下町をウォーキング (3月2日 石火矢町ふるさと村など)

市とJR西日本とのタイアップによる「駅から歩こう—備中松山城と城下町高梁—」が行われ、市内外から約70人の参加がありました。春めいてきた日差しの中、参加者は石火矢町ふるさと村や備中松山城などを巡る約10^{キロ}のコースを思い思いのペースで歩き、城下町の風情を楽しんでいました。

声援を受け町並みを駆け抜ける

(2月10日「第29回愛らぶ高梁ふれあいマラソン」)

城下町コース(8^{キロ})、愛らぶコース(5^{キロ})、ふれあいコース(3^{キロ})の3コース、計13部門(年代別・男女別など)に958人が出場しました。〈写真右〉



3月2日「第21回体力づくり なりわ健康マラソン」

2.6^{キロ}の町並みコースと4.8^{キロ}の神楽コースに分かれ、9部門に322人が出場。招待選手として、昨年の全国高校駅伝女子で3位入賞の興譲館高校の選手も参加しました。〈写真左〉



観光写真コンテスト グランプリ決定

(2月15日 総合文化会館にて審査)

(社)高梁市観光協会が主催する「第22回備中たかはし観光写真コンテスト」の入賞者が決まり、グランプリには岡城正義さん(岡山市今)の「鉄砲隊」(左の写真)が選ばれました。

作品の対象は高梁市全域の風景や行事の写真で、市内外の53人から計130点の応募がありました。

入賞作品(20点)は、3月17日(月)～3月31日(月)まで高梁国際ホテルのロビーで展示されます。

観光から移住促進に

(2月14日 文化交流館)

「高梁体験・学習観光フォーラム」が開かれ、約100人が参加しました。黒木定蔵・宮崎県西米良村長が講演し、観光客が農繁期に農家を手伝い、賃金を得ながら村に滞在する取り組みを中心に村の振興策を紹介。

また、シンポジウムでは吉備国際大学の村本茂樹教授を司会に、黒木村長、宇治地域都市交流事業推進委員会の牧野義廣会長、成羽町下原の旅行業・難波幹治氏の3人が高梁の魅力、観光振興策について意見を出しました。



力作ずらり うかん文化祭

(2月5日～11日 有漢生涯学習センター)

「うかん文化祭」(同実行委員会主催)が行われ、展示の部には公民館講座生らによる神楽面など工芸品や絵画、書など力作約750点がずらりと並び、訪れた人らは作品に見入っていました。

最終日の芸能発表の部には12団体が出演。ハーモニカ演奏ではステージと会場が一体となって盛り上がりました。併せて「うかん生涯学習推進大会」もあり、テレビでおなじみのオスマン・サンコンさんが「サンコンの大地の教え」と題して講演しました。



留学生とひな祭り料理づくり

(3月1日 高梁総合福祉センター)

高梁市北栄養改善協議会の主催で「ひな祭り料理教室」が行われ、招待された吉備国際大学の留学生13人が、ひな祭りの料理づくりに挑戦しました。

その後、できあがった料理を囲んで、ひな祭りの伝統的なしきたりや歴史などの話をしながら、交流を深めました。



今月の 表紙

春を告げるセツブン草 (撮影日2月25日)

成羽町布寄の田原地区の休耕畑(宮本嘉代さん所有)約4畝に群生するセツブンソウ(草)が見ごろを迎えました。セツブンソウはキンポウゲ科の多年草で、節分のころ咲くことからその名があります。高さは10㎝前後で、花は直径約2㎝。白い花びらに見えるのがくで、花びらは退化して黄色の蜜腺となっています。

今年は雪も多く寒い日が続いたため、例年よりも咲き始めが遅かったようです。撮影したこの日も、かれんなセツブンソウを見ようと愛好家らがカメラを手に訪れていました。